

視力1.0未満の子どもの割合が小学校で過去最高(37.0%)に

令和2年度 学校保健統計調査結果 (香川県分)

□ 調査の概要

学校保健統計調査は、幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の発育及び健康の状態を明らかにするために、昭和23年度から毎年実施されている基幹統計調査です。

文部科学大臣が指定（抽出）した県内149校（幼稚園（幼保連携型認定こども園を含む。以下同様。）、小学校、中学校、高等学校）に在籍する5歳から17歳（令和2年4月1日現在満年齢）までの児童等を対象に、令和2年4月～令和3年3月（※：巻末に記載した注意事項を参照）に行われた健康診断の結果をもとに調査を実施したものです。

□ 調査結果の概要

◆発育状態調査

◇身長（2ページの表1）

- ・前年度と比較すると、男子は10,11歳で、女子は5歳で前年度を下回っている。
- ・全国平均と比較すると、男子、女子ともに全ての年齢で全国平均を下回っている。

◇体重（4ページの表2）

- ・前年度と比較すると、男子は11歳で、女子は5,12,15～17歳で前年度を下回っている。
- ・全国平均と比較すると、男子は15,17歳を、女子は9,13～17歳をそれぞれ除き全国平均を下回っている。

◇肥満傾向児（肥満度が20%以上の者）の出現率（6ページの表3）

- ・前年度と比較すると、男子は10～12,15歳で、女子は6,7,12,15～17歳で前年度を下回っている。（13年齢区分中、男子は上昇9・低下4、女子は上昇7・低下6）
- ・全国平均と比較すると、男子は5～14,16歳を除いた年齢で、女子は6,7,12歳を除いた年齢で全国平均を上回っている。（男子は高2・低11、女子は高10・低3）

◆健康状態調査（11ページの表7）

◇裸眼視力1.0未満の者

- ・前年度と比較すると、幼稚園で前年度を下回っているが、小学校、中学校では上回っている。小学校については、昭和54年度の裸眼視力に関する調査開始以降（ただし、昭和54・55年度と平成5・15年度は不明）、最も高い数値（37.0%）となった。
- ・全国平均と比較すると、幼稚園、小学校では全国平均を下回っているが、中学校では上回っている。[高等学校については、今年度は非公表（11ページの表7欄下の(注)4参照）]

◇歯垢の状態（歯に相当の付着がある）、歯肉の状態（歯肉に炎症があり、専門医による診断が必要）

- ・前年度と比較すると、歯垢の状態は、高等学校で前年度を下回っているが（改善）、幼稚園、小学校、中学校で上回っている（悪化）。歯肉の状態は、幼稚園、高等学校では前年度を下回っているが（改善）、小学校、中学校では上回っている（悪化）。
- ・全国平均と比較すると、歯垢の状態は、幼稚園、高等学校では全国平均を下回っているが、小学校、中学校で上回っている。歯肉の状態についても同様で、幼稚園、高等学校では全国平均を下回っているが、小学校、中学校で全国平均を上回っている。

□ 調査対象

区 分	全学校数 (校)	うち調査対象校		全在籍者数 (人)	うち調査対象者				
		実数 (校)	割合 (%)		発育状態		健康状態		
					実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	
合 計	452	149	33.0	105,892	13,125	12.4	66,297	62.6	
内 訳	幼 稚 園	184	31	16.8	5,170	1,060	20.5	1,470	28.4
	小 学 校	154	57	37.0	49,988	5,465	10.9	28,556	57.1
	中 学 校	74	37	50.0	25,567	4,440	17.4	18,920	74.0
	高 等 学 校	40	24	60.0	25,167	2,160	8.6	17,351	68.9

※発育状態は、調査対象校の該当年齢の無作為抽出児童等が対象で、健康状態は、調査対象校の該当年齢の全児童等が対象である。
※学校数は、学校基本調査結果による。ただし、休校を除く。

■ 発育状態調査

【身長】

身長（平均値）を前年度と比較すると、男子は10, 11歳で、女子は5歳で前年度を下回っている。（13年齢区分中、男子は増加11・減少2、女子は増加12・減少1）

全国平均と比較すると、男子、女子ともに全ての年齢で全国平均を下回っている。（男子は高0・低13、女子は高0・低13）（表1、図1）

各年齢間の身長差をみると、男子は11～12歳の間が7.9cm、女子は8～9歳の間が7.1cmと最も大きくなっている。（図2）

30年前（親の世代）の平成2年度と比較すると、男子は5～16歳で、女子は6～13, 16, 17歳で親の世代の値を上回っており、特に12歳男子で2.5cm、9歳女子で1.8cmと最も伸びている。（表1、図3）

表1 年齢別身長の平均値

区分		男 子							女 子						
		令和2年度				平成2年度			令和2年度				平成2年度		
		香川県		全国		香川県		香川県		全国		香川県		全国	
		A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C	A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C
幼稚園	5歳	110.8	0.7	111.6	△0.8	34	110.4	0.4	109.4	△0.3	110.6	△1.2	45	109.5	△0.1
小学校	6歳	117.2	1.2	117.5	△0.3	25	116.8	0.4	115.9	0.3	116.7	△0.8	36	115.5	0.4
	7歳	122.6	0.1	123.5	△0.9	35	122.2	0.4	121.6	0.2	122.6	△1.0	38	121.5	0.1
	8歳	127.7	0.5	129.1	△1.4	41	127.5	0.2	127.6	0.5	128.5	△0.9	35	127.2	0.4
	9歳	133.3	0.5	134.5	△1.2	42	133.0	0.3	134.7	1.8	134.8	△0.1	18	132.9	1.8
	10歳	138.5	△0.2	140.1	△1.6	45	138.1	0.4	140.7	2.0	141.5	△0.8	33	139.3	1.4
中学校	11歳	145.1	△0.1	146.6	△1.5	40	143.6	1.5	146.9	0.1	148.0	△1.1	41	145.5	1.4
	12歳	153.0	0.4	154.3	△1.3	38	150.5	2.5	151.7	0.5	152.6	△0.9	37	151.0	0.7
	13歳	160.1	0.7	161.4	△1.3	37	158.4	1.7	154.5	0.3	155.2	△0.7	41	154.2	0.3
高等学校	14歳	164.9	0.3	166.1	△1.2	40	163.8	1.1	155.9	0.1	156.7	△0.8	39	155.9	0.0
	15歳	168.1	0.5	168.8	△0.7	33	167.5	0.6	156.9	0.2	157.3	△0.4	28	157.1	△0.2
	16歳	169.7	0.9	170.2	△0.5	32	168.9	0.8	157.3	0.4	157.7	△0.4	29	157.2	0.1
	17歳	170.0	0.1	170.7	△0.7	40	170.1	△0.1	157.6	0.8	157.9	△0.3	23	157.0	0.6

（注）△は、全国平均を上回るものを示す。

図1 身長の全国平均値との差

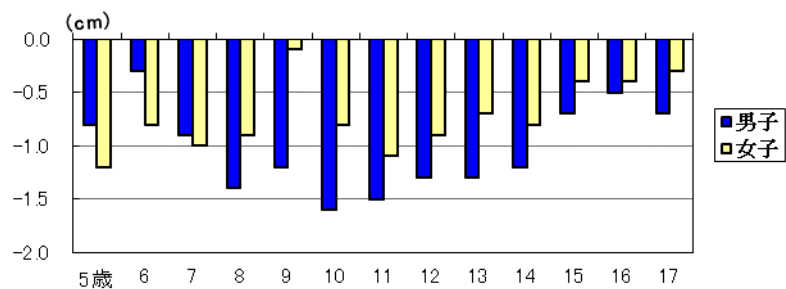
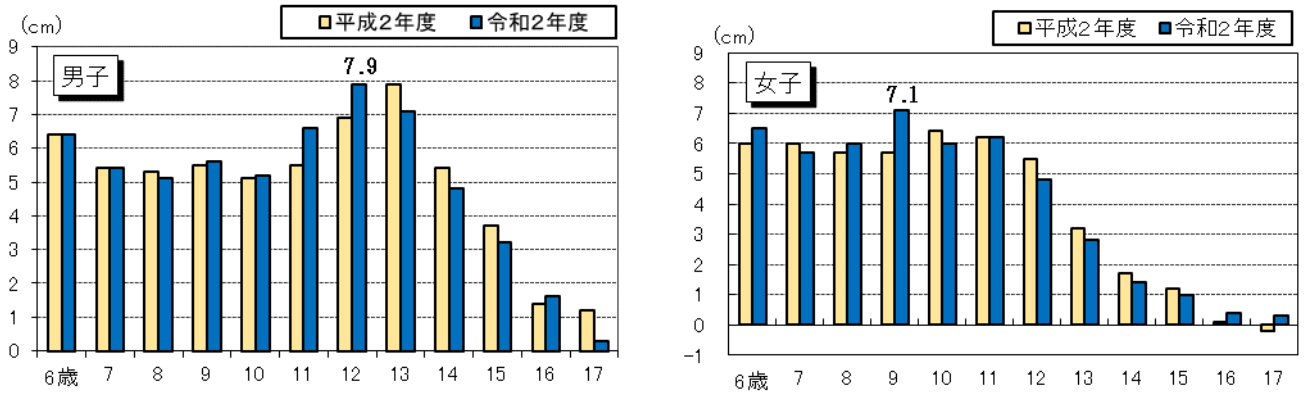
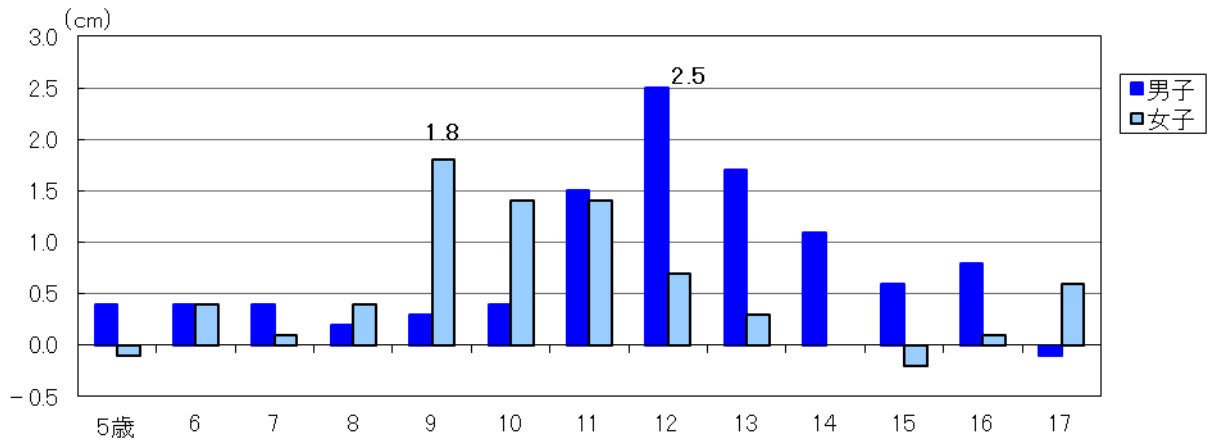


図2 各年齢間の身長差



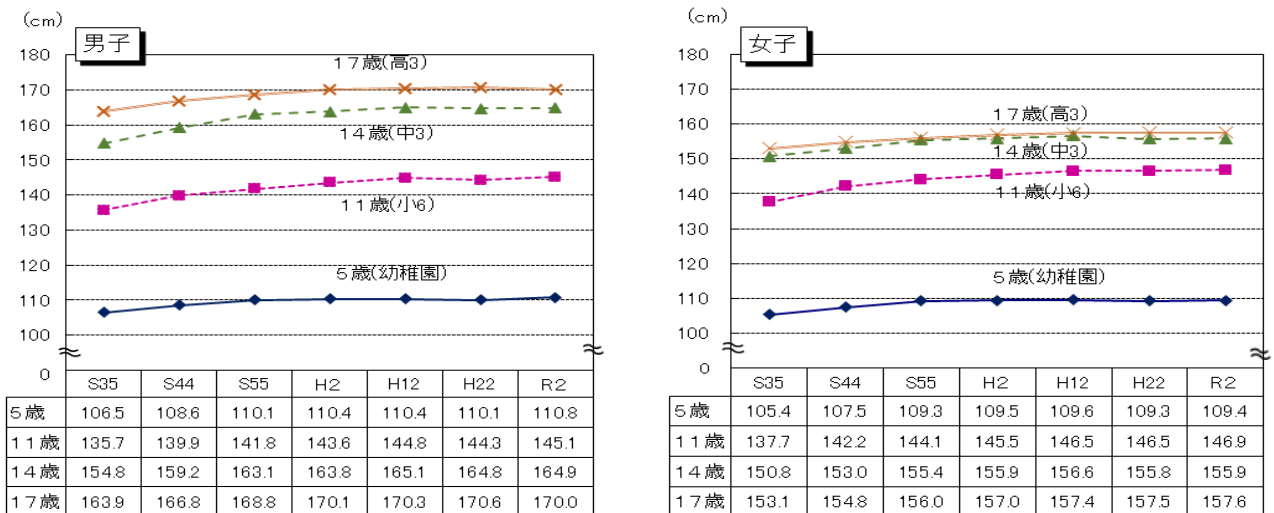
(注) 図中の6歳は(6歳-5歳)であり、7歳は(7歳-6歳)となっている。以下の各図においても同じ。

図3 30年前(親の世代)との身長差(令和2年度-平成2年度)



各学校段階の最高学年の身長について、60年間の推移を10年ごとにみると、男子の最高値は5, 11歳が令和2年度、14歳が平成12年度、17歳が平成22年度となっており、女子の最高値は5, 14歳が平成12年度、11, 17歳が令和2年度となっている。(図4)

図4 身長の平均値の推移(昭和35年度~令和2年度の10年間隔)



注) S45 数値がないため、S44 数値を掲載

【体 重】

体重（平均値）を前年度と比較すると、男子は11歳で、女子は5, 12, 15～17歳で前年度を下回っている。（13年齢区分中、男子は増加12・減少1、女子は増加7・減少5）

全国平均と比較すると、男子では15, 17歳を、女子では9, 13～17歳をそれぞれ除いて全国平均を下回っている。（男子は高2・低11、女子は高4・低7）（表2、図5）

各年齢間の体重差をみると、男子は11～12歳の間が5.7kg、女子は10～11歳の間が4.7kgと最も大きくなっている。（図6）

30年前（親の世代）の平成2年度と比較すると、男子は6～14, 16, 17歳で、女子は6～11, 13歳で親の世代の値を上回っており、特に17歳男子で1.7kg、9歳女子で1.6kgと最も増加している。（表2、図7）

表2 年齢別体重の平均値

(kg)

区 分		男 子						女 子							
		令和2年度			平成2年度			令和2年度			平成2年度				
		香川県		全国	香川県		全国	香川県		全国	香川県		全国		
		A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C	A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C
幼稚園	5歳	19.2	0.1	19.4	△ 0.2	26	19.2	0.0	18.7	△ 0.2	19.0	△ 0.3	40	18.7	0.0
小学校	6歳	21.8	0.7	22.0	△ 0.2	24	21.6	0.2	21.3	0.0	21.5	△ 0.2	26	21.1	0.2
	7歳	24.4	0.3	24.9	△ 0.5	35	24.0	0.4	23.8	0.2	24.3	△ 0.5	35	23.4	0.4
	8歳	27.3	0.5	28.4	△ 1.1	44	26.8	0.5	27.2	0.6	27.4	△ 0.2	29	26.6	0.6
	9歳	31.0	0.8	32.0	△ 1.0	43	30.0	1.0	31.5	1.6	31.1	0.4	7	29.9	1.6
	10歳	34.8	0.2	35.9	△ 1.1	40	33.6	1.2	35.2	1.7	35.4	△ 0.2	22	34.2	1.0
	11歳	39.2	△ 0.4	40.4	△ 1.2	34	37.6	1.6	39.9	0.7	40.3	△ 0.4	34	38.6	1.3
中学校	12歳	44.9	0.4	45.8	△ 0.9	33	43.3	1.6	44.0	△ 0.3	44.5	△ 0.5	35	44.6	△ 0.6
	13歳	50.1	0.6	50.9	△ 0.8	33	49.2	0.9	48.4	0.7	47.9	0.5	11	47.3	1.1
	14歳	54.7	0.8	55.2	△ 0.5	35	54.1	0.6	50.2	0.1	50.2	0.0	25	50.6	△ 0.4
高等学校	15歳	59.0	0.1	58.9	0.1	24	59.0	0.0	51.3	△ 0.3	51.2	0.1	21	51.8	△ 0.5
	16歳	60.7	1.0	60.9	△ 0.2	29	60.3	0.4	51.9	△ 0.5	51.9	0.0	29	52.3	△ 0.4
	17歳	63.1	0.3	62.6	0.5	21	61.4	1.7	52.5	△ 0.5	52.3	0.2	25	52.5	0.0

(注) は、全国平均を上回るものを示す。

図5 体重の全国平均値との差

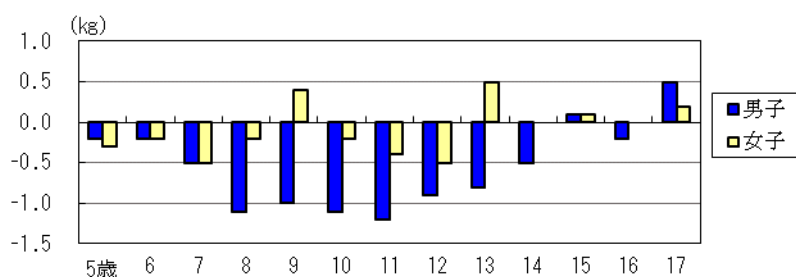


図6 各年齢間の体重差

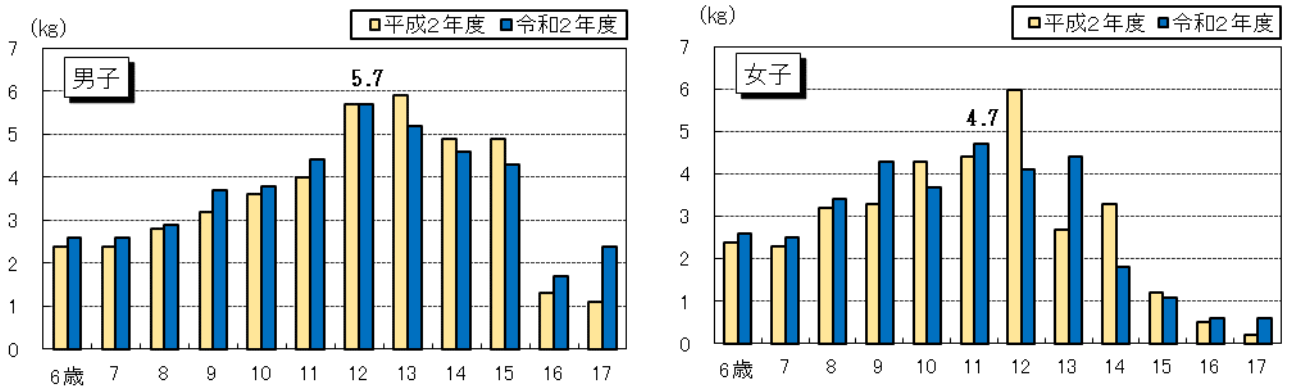
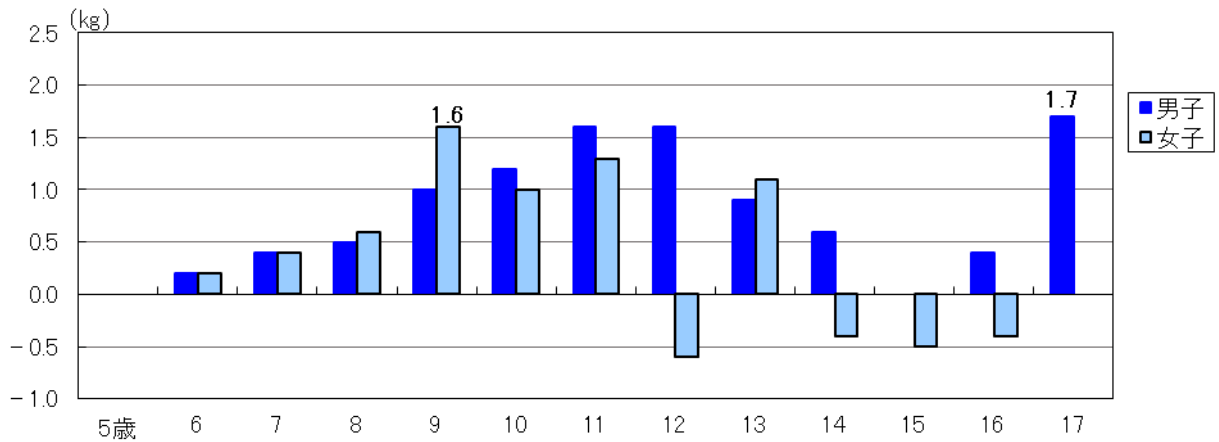
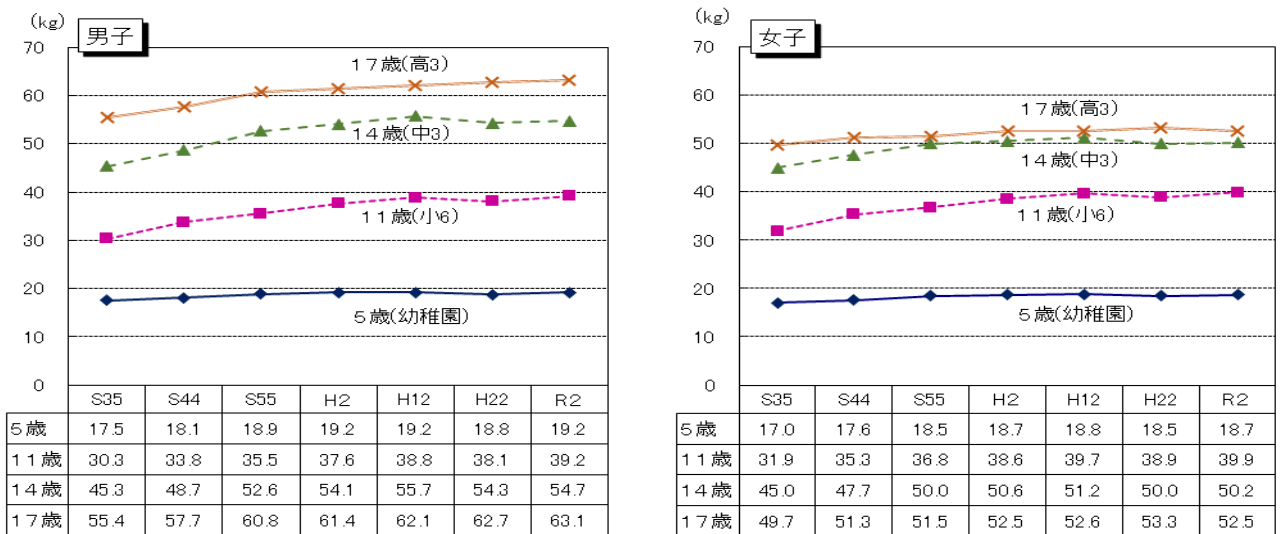


図7 30年前（親の世代）との体重差（令和2年度－平成2年度）



各学校段階の最高学年の体重について、60年間の推移を10年ごとにみると、男子の最高値は5歳が平成2年度と平成12年度及び令和2年度、11歳が令和2年度、14歳が平成12年度、17歳が令和2年度となっており、女子の最高値は5歳が平成12年度、11歳が令和2年度、14歳が平成12年度、17歳が平成22年度となっている。（図8）

図8 体重の平均値の推移（昭和35年度～令和2年度の10年間隔）



注) S45 数値がないため、S44 数値を掲載

【肥満傾向児の出現率】

肥満傾向児の出現率を前年度と比較すると、男子は10～12, 15歳で、女子は6, 7, 12, 15～17歳で前年度を下回っている。(13年齢区分中、男子は上昇9・低下4、女子は上昇7・低下6)

全国平均と比較すると、男子は5～14, 16歳を除いた年齢で、女子は6, 7, 12歳を除いた年齢で全国平均を上回っている。(男子は高2・低11、女子は高10・低3)

各年齢別の出現率をみると、男子が17歳で15.20%、女子が10歳で11.08%と最も高くなっている。(表3、図9)

表3 肥満傾向児の出現率

区分	年齢	計					男子					女子				
		香川県		全国			香川県		全国			香川県		全国		
		A	対前年度差	B	A-B	順位	A	対前年度差	B	A-B	順位	A	対前年度差	B	A-B	順位
幼稚園	5歳	3.95	0.96	3.51	0.44	12	3.34	0.53	3.65	△0.31	25	4.59	1.41	3.37	1.22	12
小学校	6歳	4.82	△0.44	5.51	△0.69	34	5.15	0.34	5.85	△0.70	30	4.47	△1.26	5.16	△0.69	32
	7歳	6.74	0.48	8.03	△1.29	35	7.70	2.09	8.77	△1.07	26	5.75	△1.20	7.25	△1.50	39
	8歳	9.61	2.18	10.31	△0.70	31	9.20	1.36	11.67	△2.47	37	10.04	3.05	8.89	1.15	12
	9歳	10.56	1.18	11.50	△0.94	36	10.59	1.80	13.58	△2.99	43	10.53	0.53	9.32	1.21	17
	10歳	11.56	1.20	11.91	△0.35	25	12.03	△0.76	14.24	△2.21	35	11.08	3.30	9.47	1.61	12
	11歳	11.30	△0.37	11.38	△0.08	28	12.79	△1.60	13.31	△0.52	29	9.72	0.95	9.36	0.36	27
中学校	12歳	8.75	△1.49	10.84	△2.09	40	9.70	△0.98	12.71	△3.01	40	7.76	△2.04	8.89	△1.13	37
	13歳	10.65	1.25	10.40	0.25	21	11.37	1.68	12.18	△0.81	30	9.92	0.81	8.53	1.39	16
	14歳	9.47	2.04	9.64	△0.17	25	9.99	2.31	10.94	△0.95	34	8.96	1.80	8.29	0.67	21
高等学校	15歳	10.69	△1.32	9.72	0.97	19	13.87	△0.72	12.07	1.80	18	7.44	△1.93	7.30	0.14	26
	16歳	9.33	0.63	9.09	0.24	25	10.38	1.30	11.54	△1.16	37	8.26	△0.04	6.59	1.67	15
	17歳	11.78	△0.52	10.08	1.70	13	15.20	1.37	12.48	2.72	8	8.22	△2.57	7.63	0.59	28

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 青字は、全国平均を上回るものを示す。

図9 肥満傾向児の年齢別出現率

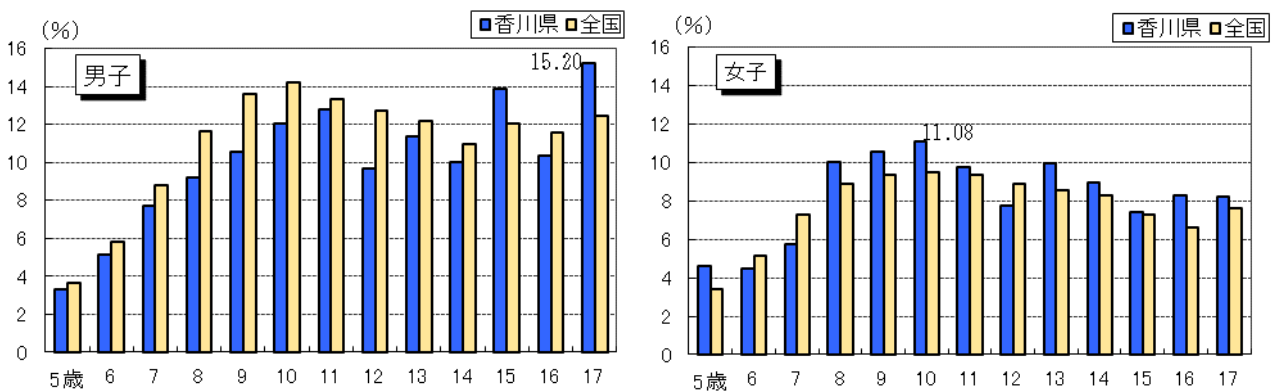
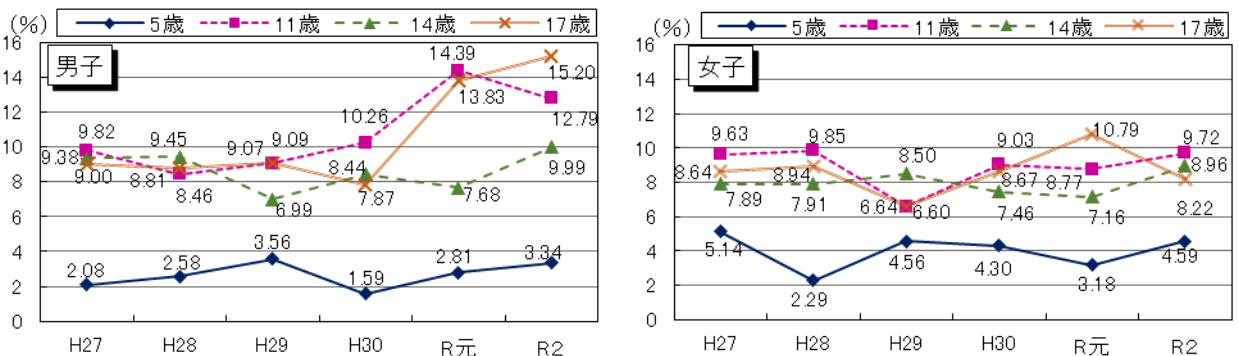


図10 肥満傾向児の出現率の推移



【痩身傾向児の出現率】

痩身傾向児の出現率を前年度と比較すると、男子は8～10, 12歳で、女子は5, 9, 10, 15歳で前年度を下回っている。(13年齢区分中、男子は上昇9・低下4、女子は上昇9・低下4)

全国平均と比較すると、男子は7～10, 12～15, 17歳で、女子は5, 7, 9～11, 15, 16歳で全国平均を下回っている。(男子は高4・低9、女子は高6・低7)

各年齢別の出現率をみると、男子は11歳で4.40%、女子は12歳で4.85%と最も高くなっている。(表4、図11)

表4 痩身傾向児の出現率

区分	年齢	計					男子					女子				
		香川県		全国		順位	香川県		全国		順位	香川県		全国		順位
		A	対前年度差	B	A-B		A	対前年度差	B	A-B		A	対前年度差	B	A-B	
幼稚園	5歳	0.49	0.45	0.44	0.05	11	0.97	0.97	0.50	0.47	3	-	△0.09	0.38	△0.38	39
小学校	6歳	1.13	0.98	0.52	0.61	2	0.86	0.71	0.42	0.44	4	1.41	1.26	0.63	0.78	2
	7歳	0.52	0.52	0.64	△0.12	25	0.58	0.58	0.62	△0.04	18	0.46	0.46	0.65	△0.19	30
	8歳	0.60	0.24	1.03	△0.43	33	-	△0.52	0.97	△0.97	46	1.23	1.05	1.09	0.14	18
	9歳	1.27	△0.50	2.08	△0.81	41	1.15	△0.14	1.83	△0.68	36	1.39	△0.87	2.35	△0.96	34
	10歳	1.66	△0.17	2.76	△1.10	40	1.35	△0.23	2.76	△1.41	44	1.98	△0.12	2.76	△0.78	30
	11歳	3.04	1.41	3.16	△0.12	15	4.40	2.56	3.45	0.95	4	1.60	0.19	2.87	△1.27	37
中学校	12歳	3.44	0.45	4.00	△0.56	24	2.11	△0.24	3.65	△1.54	41	4.85	1.20	4.37	0.48	10
	13歳	3.07	1.54	3.09	△0.02	14	2.86	2.14	2.99	△0.13	15	3.29	0.96	3.20	0.09	18
	14歳	2.44	1.19	3.02	△0.58	32	1.91	0.92	3.24	△1.33	42	2.96	1.45	2.79	0.17	12
高等学校	15歳	2.42	0.52	3.69	△1.27	41	3.06	1.43	4.24	△1.18	34	1.78	△0.38	3.13	△1.35	38
	16歳	3.45	1.59	3.66	△0.21	13	4.25	2.36	4.07	0.18	14	2.64	0.82	3.24	△0.60	18
	17歳	3.08	1.62	3.20	△0.12	12	2.85	0.61	3.57	△0.72	29	3.33	2.64	2.82	0.51	10

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

「-」については、該当者がいない。

■は、全国平均を上回るものを示す。

図11 痩身傾向児の年齢別出現率

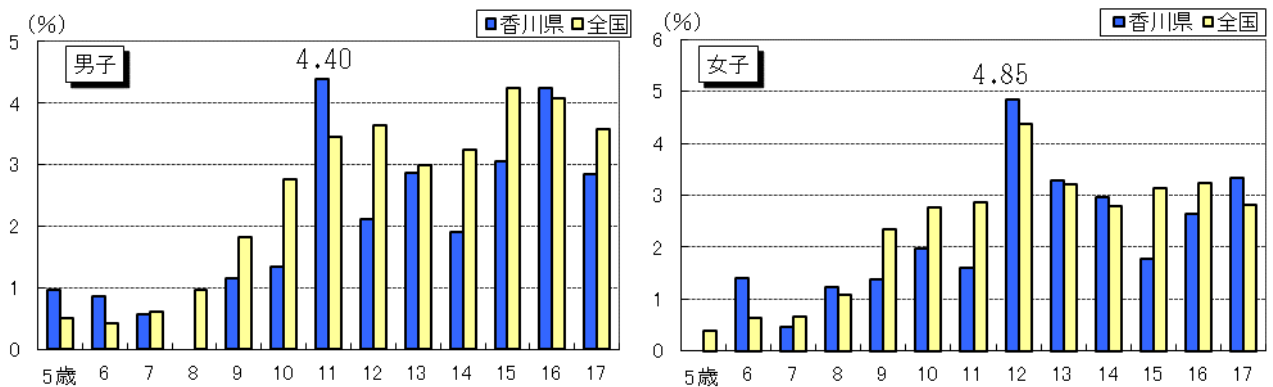
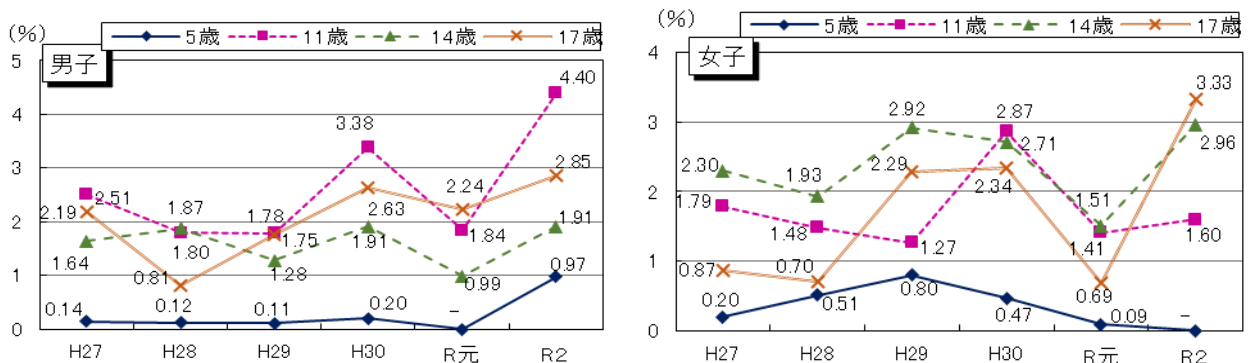


図12 痩身傾向児の出現率の推移



■ 健康状態調査

【主な疾病・異常被患率】

各年齢別の主な疾病・異常被患率をみると、「裸眼視力1.0未満」は、年齢が進むにつれて被患率が高くなる傾向がある。(表5)

表5 疾病・異常の被患率

(%)

区分	計	裸眼視力			眼の 疾病・ 異常	耳鼻咽喉			歯・口腔			アトピー 一性 皮膚炎	心電図 異常	蛋白 検出 の者	ぜん息	
		1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満		耳疾患	鼻・ 副鼻腔 疾患	口腔 咽喉頭 疾患・ 異常	むし歯(う歯)							
		計	処置 完了者	未処置 歯の ある者												
幼稚園	5歳	24.5	19.1	4.4	1.0	2.2	6.3	3.3	0.1	36.3	15.0	21.3	1.2	…	1.1	0.9
小学 校	計	37.0	11.7	13.4	11.9	4.4	7.0	10.6	0.6	41.9	24.2	17.7	3.2	4.6	2.7	3.0
	6歳	22.4	14.7	6.3	1.4	4.0	9.8	9.8	1.4	40.2	18.2	22.0	3.4	4.6	2.1	3.6
	7歳	26.0	12.7	9.0	4.2	4.5	6.4	10.8	0.6	46.1	25.7	20.4	3.0	…	1.9	3.1
	8歳	36.0	11.2	15.3	9.4	4.4	7.2	10.7	0.3	51.2	28.7	22.5	2.9	…	2.0	2.7
	9歳	40.6	11.0	15.7	13.9	4.3	7.0	10.7	0.5	47.0	29.2	17.8	3.2	…	2.8	2.8
	10歳	45.7	9.4	16.8	19.5	4.5	6.1	10.2	0.3	37.4	23.1	14.3	3.7	…	3.0	3.2
中学 校	計	59.2	X	X	X	3.0	4.2	5.2	0.2	37.7	25.1	12.6	2.8	3.9	4.0	2.0
	12歳	50.0	X	X	X	3.6	5.5	5.5	0.2	33.5	22.3	11.1	2.7	3.9	4.1	1.9
	13歳	60.8	7.5	22.8	30.5	3.0	3.7	5.3	0.2	38.4	25.8	12.6	2.8	…	4.4	1.9
	14歳	66.7	X	X	X	2.4	3.5	4.8	0.1	41.2	27.2	14.0	2.9	…	3.4	2.0
高等 学校	計	X	X	X	X	5.8	4.9	8.3	0.0	40.5	29.2	11.3	3.3	6.0	1.2	1.5
	15歳	56.3	X	X	X	2.1	4.2	5.8	0.1	36.0	25.0	11.0	3.0	6.0	1.6	1.3
	16歳	58.0	X	X	X	7.9	6.8	9.4	0.0	42.3	30.9	11.4	3.3	…	1.1	1.6
	17歳	X	X	X	X	7.3	3.7	9.9	0.0	43.3	31.8	11.5	3.6	…	1.0	1.6

- (注) 1 この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載のあった者)の占める割合を示したものである。
 2 「…」については、調査対象とならなかった場合である。「-」については、該当者がいない場合である。
 3 「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。
 4 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

【学校種別疾病・異常被患率】

幼稚園、小学校、高等学校で「むし歯(う歯)」が最も高くなっており、中学校では「裸眼視力1.0未満」が最も高くなっている。(表6)

表6 学校種別疾病・異常の被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	むし歯(う歯)	36.3	むし歯(う歯)	41.9	裸眼視力1.0未満	59.2	むし歯(う歯)	40.5
2	裸眼視力1.0未満	24.5	裸眼視力1.0未満	37.0	むし歯(う歯)	37.7	鼻・副鼻腔疾患	8.3
3	耳疾患	6.3	鼻・副鼻腔疾患	10.6	歯肉の状態	11.1	心電図異常	6.0
4	歯列・咬合	5.4	耳疾患	7.0	歯垢の状態	10.8	眼の疾病・異常	5.8
5	鼻・副鼻腔疾患	3.3	心電図異常	4.6	歯列・咬合	8.7	耳疾患	4.9

注1) 「むし歯(う歯)」は、処置完了者と未処置歯のある者の合計割合

注2) 高等学校の「裸眼視力1.0未満」の者の割合(計)は非公表 [前ページの表5欄外の(注)3参照]

◎ むし歯(う歯)

むし歯(う歯)のある者の割合は、幼稚園が36.3%、小学校が41.9%、中学校が37.7%、高等学校が40.5%となっており、幼稚園、中学校で前年度より上昇しているが、小学校、高等学校では低下している。

年齢別にみると8歳が51.2%と最も高く、次いで9歳の47.0%、7歳の46.1%となっている。

むし歯(う歯)のある者の割合の推移をみると、全ての学校種でおおむね低下傾向にある。(図13、図14、表5、表7)

◎ 歯垢の状態・歯肉の状態

歯垢の状態(歯に相当の付着がある)の割合は、高等学校では、前年度より低下しているが、幼稚園、小学校、中学校で上昇している。歯肉の状態(専門医による診断が必要)の割合は、幼稚園、高等学校では前年度より低下しているが、小学校、中学校では上昇している。(図15、16、表7)

図13 むし歯(う歯)のある者の割合

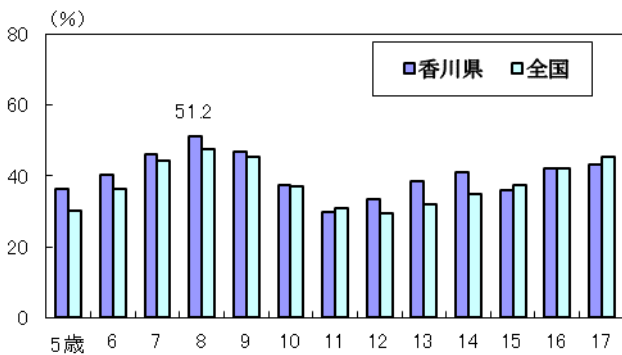


図14 むし歯(う歯)のある者の割合の推移

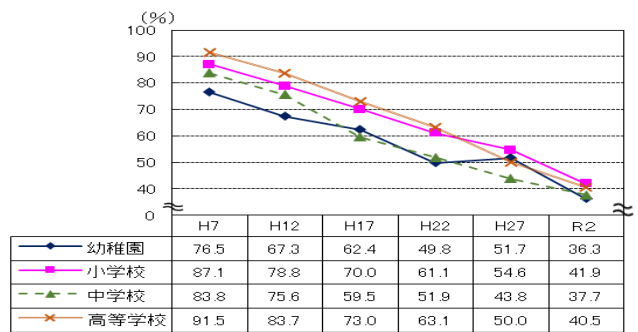


図15 歯垢の状態(歯に相当の付着がある)の割合の推移

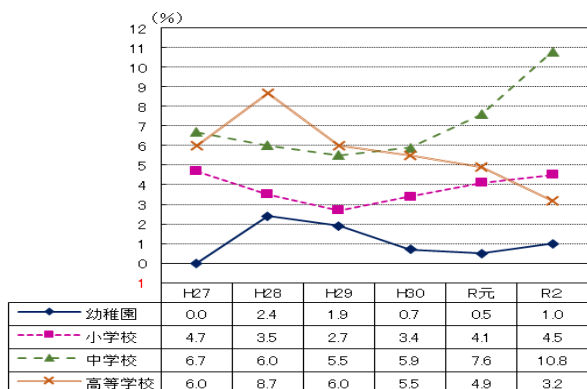
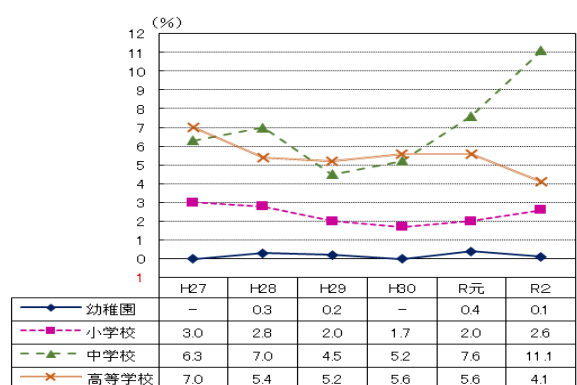


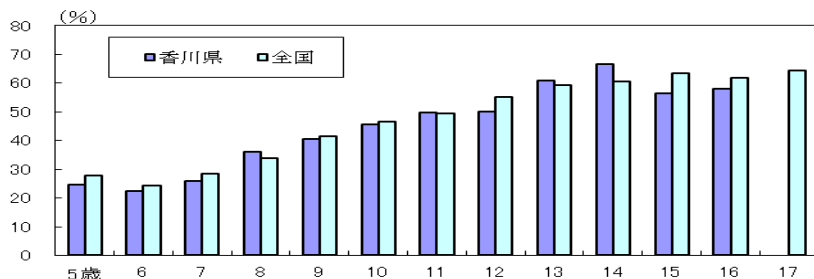
図16 歯肉の状態(専門医による診断が必要)の割合の推移



◎ 裸眼視力 1.0 未満の者

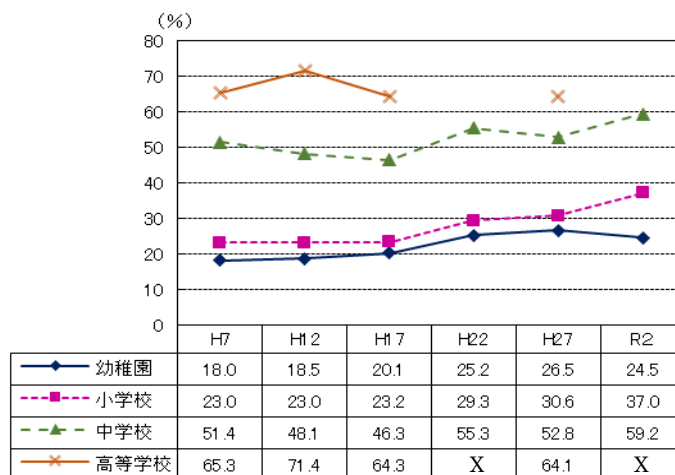
裸眼視力 1.0 未満の者の割合は、幼稚園が 24.5%、小学校が 37.0%、中学校が 59.2%、高等学校については今年度は非公表となっており、小学校、中学校で前年度より上昇している。裸眼視力 1.0 未満の者の割合の推移をみると、小学校、中学校は上昇傾向にある。(図 17、18、表 5、7)

図 17 裸眼視力 1.0 未満の者の割合



注) 17 歳の裸眼視力 1.0 未満の者の割合(香川県)は非公表 [前々ページの表 5 欄外の(注)3 参照]

図 18 裸眼視力 1.0 未満の者の割合の推移



◎ 鼻・副鼻腔疾患

鼻・副鼻腔疾患の者の割合は、幼稚園が 3.3%、小学校が 10.6%、中学校が 5.2%、高等学校が 8.3%となっている。年齢別にみると 11 歳が 11.6%と最も高くなっている。前年度と比べると、全ての学校種で低下している。(図 19、表 5、7)

◎ アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の者の割合は、幼稚園が 1.2%、小学校が 3.2%、中学校が 2.8%、高等学校が 3.3%となっている。年齢別にみると 10 歳が 3.7%と最も高くなっている。前年度と比べると、幼稚園、中学校で低下している一方、小学校、高等学校では上昇している。(図 20、表 5、7)

図 19 鼻・副鼻腔疾患の者の割合

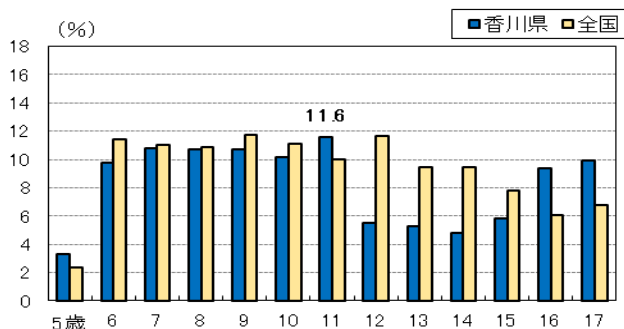
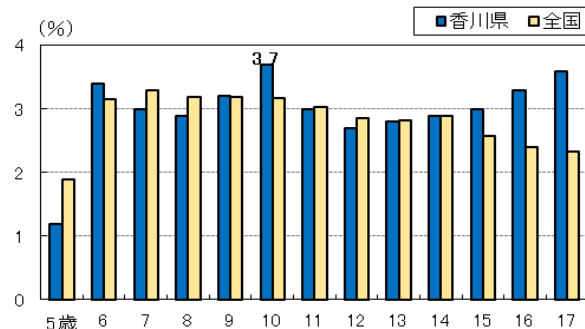


図 20 アトピー性皮膚炎の者の割合



【主な疾病・異常被患率の全国比較】

主な疾病・異常被患率について全国と比較すると、「むし歯（う歯）のある者」については、高等学校を除いた学校種で全国を上回っている。「歯垢の状態」と「歯肉の状態」は、幼稚園、高等学校では全国平均を下回っているが、小学校、中学校では全国を上回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」については、中学校で全国を上回っている。

「耳疾患」については、中学校を除いた学校種で全国を上回っている。

「アトピー性皮膚炎」については、幼稚園、中学校で全国を下回っているが、小学校、高等学校では上回っている。（表7、図21）

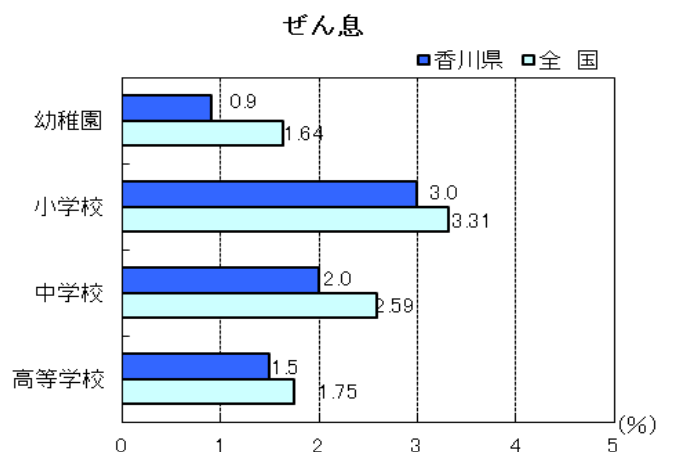
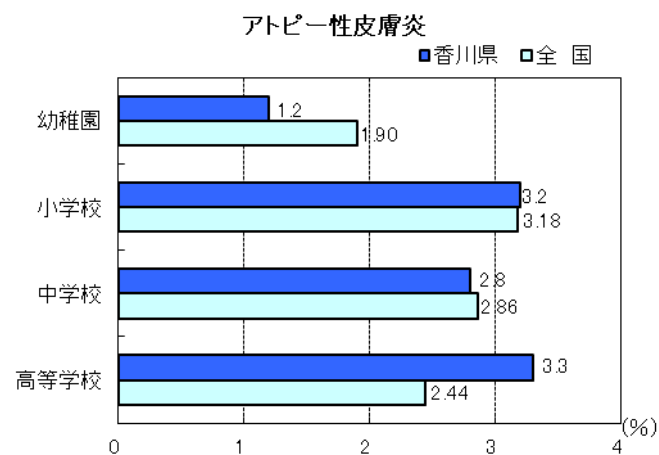
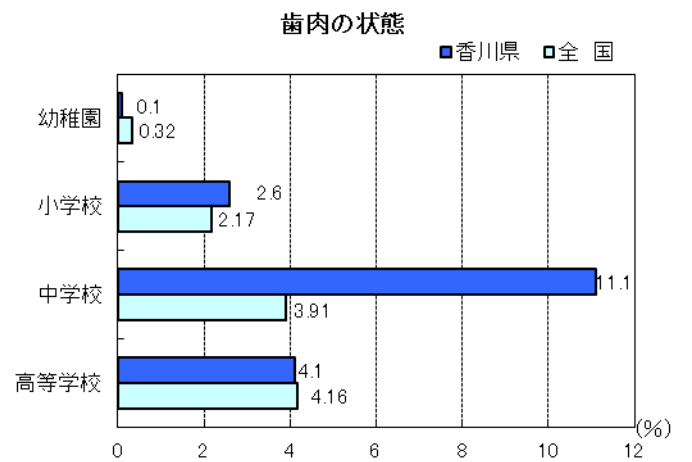
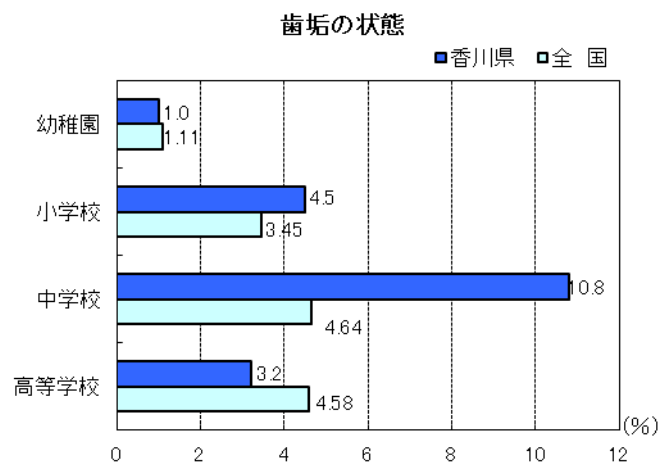
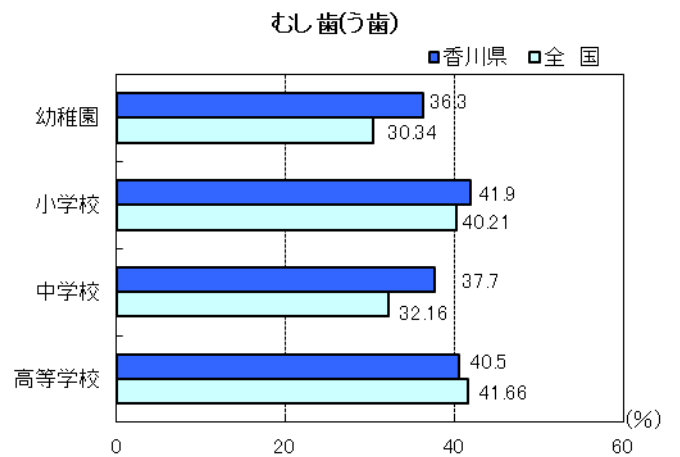
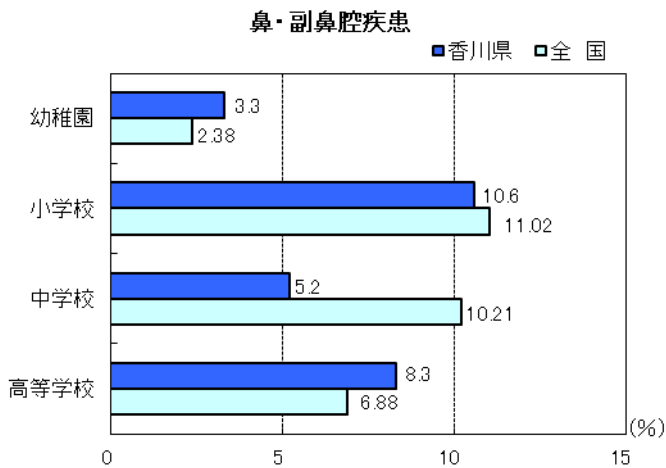
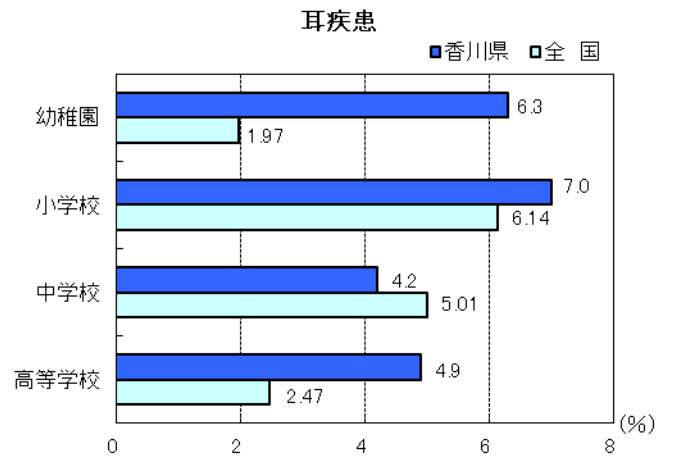
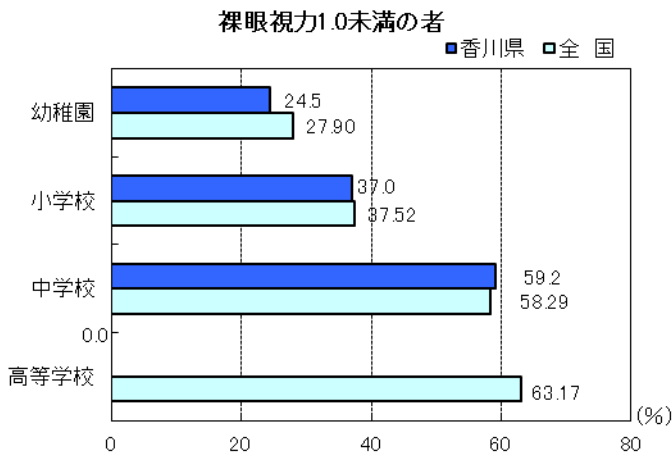
表7 主な疾病・異常被患率の全国比較

(%)

区分	裸眼視力 1.0未満 の者	眼の疾 病・異常	耳疾患	鼻・副鼻 腔疾患	むし歯(う歯)			歯・口腔		アトピー 性皮膚炎	心電図 異常	蛋白検出 の者	ぜん息	
					計	処置 完了者	未処置歯 のある者	歯垢の 状態	歯肉の 状態					
幼稚園	平成 28年度	県 18.1 国 27.94	1.8 1.87	3.7 2.83	4.5 3.58	38.4 35.64	13.2 14.53	25.2 21.11	2.4 0.60	0.3 0.21	1.5 2.39	… …	1.2 0.65	1.2 2.30
	29年度	県 25.6 国 24.48	2.1 1.60	2.8 2.25	4.7 2.86	34.3 35.45	11.9 13.85	22.4 21.60	1.9 0.84	0.2 0.39	0.7 2.09	… …	0.8 0.97	0.8 1.80
	30年度	県 28.2 国 26.68	2.1 1.55	3.3 2.31	4.8 2.91	34.6 35.10	11.8 13.60	22.8 21.50	0.7 0.69	- 0.29	1.7 2.04	… …	1.0 1.03	1.1 1.56
	令和 元年度	県 25.1 国 26.06	1.8 1.92	5.4 2.57	4.6 3.21	32.0 31.16	12.6 12.00	19.4 19.15	0.5 0.92	0.4 0.19	2.4 2.31	… …	0.7 1.02	1.9 1.83
	2年度	県 24.5 国 27.90	2.2 1.36	6.3 1.97	3.3 2.38	36.3 30.34	15.0 12.69	21.3 17.66	1.0 1.11	0.1 0.32	1.2 1.90	… …	1.1 1.00	0.9 1.64
	小学校	平成 28年度	県 31.9 国 31.46	4.8 5.38	6.4 6.09	13.4 12.91	52.7 48.89	29.2 24.73	23.5 24.16	3.5 3.15	2.8 1.99	2.2 3.18	4.2 2.44	0.7 0.76
29年度		県 33.2 国 32.46	3.1 5.68	6.5 6.24	13.0 12.84	52.1 47.06	27.9 24.07	24.2 22.99	2.7 3.02	2.0 1.91	2.7 3.26	3.5 2.39	1.9 0.87	3.1 3.87
30年度		県 32.6 国 34.10	4.5 5.70	6.2 6.47	15.2 13.04	48.6 45.30	27.1 23.07	21.5 22.23	3.4 3.11	1.7 1.91	3.0 3.40	4.3 2.40	2.0 0.80	3.2 3.51
令和 元年度		県 35.1 国 34.57	4.8 5.60	6.8 6.32	14.6 11.81	46.5 44.82	24.9 23.08	21.5 21.74	4.1 3.14	2.0 1.99	2.9 3.33	4.0 2.42	2.9 1.03	2.2 3.37
2年度		県 37.0 国 37.52	4.4 4.78	7.0 6.14	10.6 11.02	41.9 40.21	24.2 20.58	17.7 19.62	4.5 3.45	2.6 2.17	3.2 3.18	4.6 2.52	2.7 0.93	3.0 3.31
中学校		平成 28年度	県 55.2 国 54.63	4.0 5.12	3.8 4.47	8.8 11.52	40.1 37.49	27.3 20.98	12.9 16.51	6.0 5.41	7.0 4.57	2.0 2.65	3.5 3.30	2.7 2.57
	29年度	県 57.2 国 56.33	3.3 5.66	4.1 4.48	8.3 11.27	37.6 37.32	24.2 21.12	13.5 16.21	5.5 4.56	4.5 4.04	1.5 2.66	4.5 3.40	2.4 3.18	1.8 2.71
	30年度	県 57.0 国 56.04	3.0 4.87	4.2 4.72	7.7 10.99	38.4 35.41	24.0 20.41	14.4 15.01	5.9 4.73	5.2 4.14	2.3 2.85	4.5 3.27	3.3 2.91	2.3 2.71
	令和 元年度	県 56.9 国 57.47	4.0 5.38	4.2 4.71	9.1 12.10	36.6 34.00	23.8 19.78	12.8 14.22	7.6 4.50	7.6 4.21	3.1 2.87	5.0 3.27	3.7 3.35	2.1 2.60
	2年度	県 59.2 国 58.29	3.0 4.66	4.2 5.01	5.2 10.21	37.7 32.16	25.1 18.75	12.6 13.40	10.8 4.64	11.1 3.91	2.8 2.86	3.9 3.33	4.0 3.25	2.0 2.59
	高等学校	平成 28年度	県 X 国 65.99	4.5 3.43	4.8 2.30	11.2 9.41	53.3 49.18	33.1 28.35	20.3 20.84	8.7 5.14	5.4 4.69	3.1 2.32	5.2 3.39	1.9 3.29
29年度		県 76.5 国 62.30	3.2 3.54	3.9 2.59	9.4 8.61	47.6 47.30	30.0 27.63	17.6 19.67	6.0 4.84	5.2 4.53	1.8 2.27	3.6 3.27	1.2 3.52	1.4 1.91
30年度		県 77.9 国 67.23	3.1 3.94	3.9 2.45	10.7 9.85	45.0 45.36	30.8 27.11	14.1 18.25	5.5 4.57	5.6 4.26	2.4 2.58	6.3 3.34	0.8 2.94	1.9 1.78
令和 元年度		県 X 国 67.64	4.3 3.69	5.7 2.87	14.0 9.92	45.6 43.68	32.0 26.36	13.6 17.33	4.9 4.76	5.6 4.35	2.4 2.44	5.3 3.27	0.7 3.40	1.7 1.79
2年度		県 X 国 63.17	5.8 3.56	4.9 2.47	8.3 6.88	40.5 41.66	29.2 25.04	11.3 16.62	3.2 4.58	4.1 4.16	3.3 2.44	6.0 3.30	1.2 3.19	1.5 1.75

(注) 1 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。
 2 平成28,29,30,令和元年度の数値は、学校保健統計調査報告書(文部科学省)の確定値である。(今回は、令和2年度についても同様)
 3 「…」については、調査対象とならなかった場合である。「-」については、該当者がいない場合である。
 4 「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。
 5 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

図21 全国との比較



<肥満・痩身傾向児の算出方法について>

平成17年度まで、性別・年齢別に身長別平均体重を求め、その平均体重の120%以上の体重の者を肥満傾向児、80%以下の者を痩身傾向児としていたが、18年度から、性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度（過体重度）を算出し、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。

肥満度の求め方は次のとおりである。

$$\text{肥満度(過体重度)} = [\text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)}] / \text{身長別標準体重(kg)} \times 100(\%)$$

$$\text{※ 身長別標準体重(kg)} = a \times \text{実測身長(cm)} - b$$

年齢	係数	男		女	
		a	b	a	b
幼稚園	5	0.386	23.699	0.377	22.750
	6	0.461	32.382	0.458	32.079
小学校	7	0.513	38.878	0.508	38.367
	8	0.592	48.804	0.561	45.006
	9	0.687	61.390	0.652	56.992
	10	0.752	70.461	0.730	68.091
中学校	11	0.782	75.106	0.803	78.846
	12	0.783	75.642	0.796	76.934
	13	0.815	81.348	0.655	54.234
高等学校	14	0.832	83.695	0.594	43.264
	15	0.766	70.989	0.560	37.002
	16	0.656	51.822	0.578	39.057
	17	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：公益財団法人日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル（平成27年度改訂版）」

（参考）令和2年度調査の平均身長（全国）の場合の標準体重

年齢	男			女		
	平均身長 (cm)	平均身長時の 標準体重 (kg)	平均体重 (kg)	平均身長 (cm)	平均身長時の 標準体重 (kg)	平均体重 (kg)
5	111.6	19.4	19.4	110.6	18.9	19.0
6	117.5	21.8	22.0	116.7	21.4	21.5
7	123.5	24.5	24.9	122.6	23.9	24.3
8	129.1	27.6	28.4	128.5	27.1	27.4
9	134.5	31.0	32.0	134.8	30.9	31.1
10	140.1	34.9	35.9	141.5	35.2	35.4
11	146.6	39.5	40.4	148.0	40.0	40.3
12	154.3	45.2	45.8	152.6	44.5	44.5
13	161.4	50.2	50.9	155.2	47.4	47.9
14	166.1	54.5	55.2	156.7	49.8	50.2
15	168.8	58.3	58.9	157.3	51.1	51.2
16	170.2	59.8	60.9	157.7	52.1	51.9
17	170.7	61.1	62.6	157.9	52.1	52.3

<※ 令和2年度の健康診断の実施時期について>

学校保健安全法(昭和33年法律第56号)第13条第1項に定める健康診断は、本来6月30日までに実施することとなっているが、令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により、当該年度末までの期間内で実施する旨、実施時期に関しての緩和措置が取られた。（なお、香川県においては「身体計測」を内容とする「発育状態調査」の実施については、調査指定校の内、約8割の学校が、本来の実施時期である6月30日までに実施した。）